

# われら仲間 サロンの間

チームワークで  
勝負!



今回は市立久礼田体育館で活動しているミニバスケットボールチーム「北陵ジュニアーズ」におじゃましました。

北陵中学校区の小学生二十五人(男十三人、女十二人)が参加している「北陵ジュニアーズ」。もともとは子ども会活動がきっかけとなり、昭和六十三年に結成されました。

バスケット部二十数年の和泉恒寛監督と三人のコーチのもと、週二回練習をしています。その和泉監督が「勝負に勝つことよりもまず、心身を鍛え進歩感を覚えることが大切でしょう。人を思いやれるようになればと思います」と言うように、練習のあい間はみんな仲良くふざけあう姿も。

このコーナーでは、同じ趣味を持った方たちの楽しい活動風景を紹介しています。

「私たちのサークルを取材してほしい」と思われる皆さん、ぜひ応募ください。

応募方法 ナータルの代表者の氏名、住所、電話番号、活動場所、それに活動内容を簡潔に明記

〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市企画課 広報統計係



和泉恒寛監督

男女のキャプテン岡田明史君野可愛走らやんも「中が良く、チームワークの良いチーム」と自分たちのチームを評してくれました。

現在ミニバスケットのチームは市内では「こだけ」。和泉監督は「市全体に普及させたい」と、保護者を含めみんな頑張っています。

# 市民 サロン

このページは市民の皆さんが作るページです。短歌、俳句、川柳などの文芸作品やどんなことでも結構ですので皆さんのご意見をお気軽に寄ってください。

締め切りは毎月10日です。

あて先は南国市企画課市民サロン係(〒783 南国市大浦甲2301)です。

## 重い…オハライ物… 岩本タケオ(金地)



十月二十日、成田出発。「翼」の目的は国際友好と婦人問題に対する理解を深めることを主とし、研修テーマは「女性問題」「生涯学習」「福祉問題」「環境・消費」。私への課題は「生涯学習について」であった。プラハ、ハンガリーの幼稚園や学校、一般家庭などを訪問。社会主義から自由主義へと激動の真つただ中であるにもかかわらず、国の歴史や文明、文化は人々の精神的生活を支えると同時に、しっかりと受け継がれているその深さに圧倒された。デプレツェンの市役所を訪問した際、教育担当者から「人間が資源であり、教育は経済発展のもとである。日本の急速な経済成長は教育にあるので、ぜひ見習いたい」と頑張っている実態を聞き、驚いたり、また幼児教育の現場では、集団の中での遊びを通して、人格形成をしている先生に感動したりした。

両国の婦人協会の人たちとの交流会では、統制から解放された市民の歓喜の声や生活上への期待を聞け、人々の暮らしの中から改革の行方を深る機会を得たのは幸いであつた。刻一刻と世界が変化し



ていく現在、国際的な視野での思考力、判断力、行動力が不可欠の条件となる。異文化や世界と向き合う仲間と触れ、「より日本を知ること、より自分を知る」との大切さを痛感した。私たち団員こそが「生涯学習」ではなかったが、そんな思いで、今この研修に感謝している。

「高知県女性の翼」の一団員として全国から集まった三十三人の仲間と共に「ミニコスロバキア、ハンガリー十七日間の視察」に参加した島内瑛枝さん(写真 中央)。そのときの様子について執筆していただきました。

## 南国歌壇

老死して二一三歳(今判の事)  
甘美なる愛永遠に消ゆるな  
佛入りの棒太(はら)ば思ひ出す  
記憶の中の母の横顔  
喜びの言葉はじけるご婚約  
土佐路の秋の笑顔忘れじ  
嗚はりしチャボのすみ絵の壁掛を  
かざりて開けし百年の春  
電柱に石を投げつつ通いし路  
今はしたくも無き舗装道

陣原 山本 茂  
立田 北村幸江  
浜改田 楠徳富士子  
立田 池田小村  
十市 八松久幸

## 南国俳壇

葉虫が入口にいて冬の海  
積文字のまき町来て松花  
枕助とさう赤いもの不況来る  
いのこすちねにまつわる刑場跡  
奥山河越えて嬉しき美濃の国  
レノン尼の砂丘に浪接顔面置く  
凍蝶の幾度も成る石一つ  
芽振や立てかけてある竹ぼうき  
貼りゆるむ紙門松や仁王門

里改田 福井博子  
里改田 福井英子  
里改田 岡田寿子  
大埔 池沼喜美子  
福生 久万種美  
東崎 森本青三郎  
大埔 溝渕さきえ  
浜改田 浜田東風  
片山 松木巨郎

## 南国俳壇

## これはなんでしょう



答えについての思い出などもお持ちしています。

締め切り 3月10日

あて先 〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係

賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈

◎第10回親子クイズの答えは鬼のお面でした。

第10回当選者発表(敬称略)

(応募総数16通)

井上智賀 (福生)

土岡啓栄恵 (十市)

永吉利江 (藤原)

和田陽子 (頓石)

西野恵美子 (福生)

お便りの中から皆さんの思い出の一部をご紹介します。

◆子供のころは本当に鬼がいそうでした。でも子供たちの作る鬼は何ともユーモラスでかわいかったです。

◆今年はお孫子がいはいの真つ最中ですので、部屋の中では豆まきせず、寝ている間にこっそりペランダにまきました。もちろん「鬼は外、福は内」も小さな声で言いながら。早く一緒に豆まきできるようにしたいのに!

◆子供のころ、豆まきをしたとき、母に年の数だけ豆を食べるんだと言われたけど、年よりはるかに多い数を食べて笑われました。

◆節分が近づく、小学校の園工の時間は必ず鬼の面を作りました。こわい鬼がいやで、やさしい顔についてしまいました。

◆十年前のことですが、保育園で豆まきがありました。四歳だった私はその時、とても気が立っていらいらしたので、鬼のお面をかぶった人に思いっきり豆をぶついたり、けつたり、石を投げたりしました。そのはずみでお面がボロボロと落ちて、まあビックリ!その鬼の人は私の父だったんです。